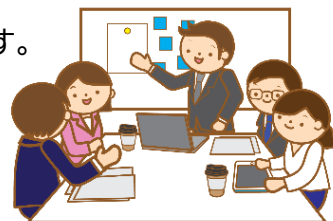




※本紙に掲載されている記事は、12月1日現在の情報で制作しています。コロナウイルスの感染拡大状況などにより、イベントが中止となる場合があります。
あらかわらばんは1月はお休みです。次号は2月15日発行です。

ファシリテーター研修のご案内

あらかわ地区まちづくり協議会では、下記のとおりファシリテーター研修会を行います。
スキルアップを目指す方、内容に興味をお持ちの方、ぜひお気軽にご参加ください。



＜第2回：意見のまとめ編＞1月15日（日）午後2時～午後4時

話し合いの場に出される多くの意見のまとめ方を学びます。

＜第3回：ファシリテーション・グラフィック編＞2月5日（日）午後2時～午後4時

話し合いの内容をその場で「見える化」する技術であるファシリテーショングラフィック（記録の取り方）を演習しながら学びます。

＜第4回：実践トレーニング＞2月26日（日）午後2時～午後4時

話し合いの場を疑似設定し、これまでの学びを活かして話し合いを進める実践的なトレーニングを行います。

＜ところ＞ 荒川地区公民館2階会議室

＜講師＞ 特定非営利活動法人まちラボ 代表理事 山賀昌子さん

＜対象者＞ 荒川地区にお住まいの方及びお勤めの方

＜参加費＞ 無料 ※事前申込み必要（開催日の3日前まで）

＜申込み＞ あらかわ地区まちづくり協議会 Tel0254-62-3102

【講師紹介】山賀昌子さん

各種まちづくり事業の全体コーディネートから事務局業務まで対応するコーディネーター。ワークショップやファシリテーショングラフィック、まちあるきなどの研修も県内外で数多く実施。

身につく6つの能力

1. 場の良い空気感を作れるようになる
2. 人を動かすことができるようになる
3. 仲間を承認し勇気づけられる
4. 場の変化を読み取ることができる
5. 意見を引き出せるようになる
6. 人の話を一歩深く聞けるようになる



あらかわ大地の会「荒川平野の生い立ちと人々の暮らしを学ぶ」

ならま ちゆき

あらかわ大地の会では、これまで荒川平野の調査について、新潟大学理学部の奈良間千之教授のアドバイスをいただきながら進めてきました。調査は継続中ですが、これまでの調査結果について下記のとおり発表会と、奈良間教授からご講演をいただきますので、ぜひご参加ください。

＜とき＞ 令和5年1月24日（火）午後1時～午後3時30分

＜ところ＞ 荒川地区公民館2階会議室

＜内容＞ 発表：あらかわ大地の会
「地形・地質からみた荒川平野の生い立ち」
「郷土の歴史からみた荒川平野」
「高坪山と荒川平野」

講演：新潟大学理学部 奈良間千之 教授
「日本アルプスの魅力」

＜その他＞ 参加費は無料。※要申込み。

＜申込み＞ あらかわ大地の会 金子【電話・FAX】0254-62-1556

【講演者紹介】奈良間千之教授

現・新潟大学理学部教授。
新潟大学GISセンター長なども務める。

専門分野として地形学・氷河学・山岳環境学などが挙げられ、研究成果を地域住民に還元するアウトリーチ活動にも積極的に取り組んでいる。近年の国内における研究として、北アルプスの唐松岳にある唐松沢雪渓が現存氷河であることを有江らと共に明らかにしたもの(2019年)などがある。

こころでひといきマルシェを開催しました

11月5日(土)に、つどい場「あら、ほっ」で、こころでひといきマルシェを開催しました。このイベントは、Garden Labo.とハーブメイツあらかわの企画で、水害で様々なイベントが中止となった地域の方々に少しでも楽しんでいただけるようにしようと、ハーブを使った体験コーナーや、臥牛山さんによるちゃんこ鍋ふるまい、水害で被災した御菓子の小島屋さん、CHOUCHOUさんによる物販などを行いました。



イベント会場では、地域の方々が久しぶりに顔を合わせ、お互いに「元気だった？」などお互いの近況を確認し合い楽しいひとときを過ごしていました。

おとな時間を楽しむ会を開催しました

11月6日(日)に、篠笛奏者の田村優子さんらをゲストに、演奏会「日本の伝統楽器 篠笛とピアノの調べ」を行いました。



会場となったつどい場「あら、ほっ」は、照明機材などの使用によって、あっという間に星空のような雰囲気に変わり。来場した皆さんは篠笛やピアノ、チェロの音色に酔いしれ、一足早いクリスマスコンサートを楽しみました。

奏者の田村優子さんは、「水害で本当に大変な思いをされている皆さんに少しでも寄り添えればと今回の演奏会が開催でき、本当に嬉しかった」とお話しくださいました。演奏された田村さん、濱田さん、吉田さん、本当にありがとうございました。

育成部会視察研修を実施しました

11月14日(月)に、あらかわ地区まちづくり協議会育成部会の視察研修として、阿賀町の「阿賀まちづくり株式会社」を訪ねました。お話いただいた高橋代表は、未来の子ども達のために阿賀町で持続可能な循環型社会を実現するために、空き家対策事業や地域資源を活用したイベントなど幅広く活動されています。



阿賀まちづくり(株)の高橋代表



三川観光きのこ園も視察

地域の価値を上げるためには、誰が主役かは大事な事ではなく、まちの価値を上げるために住民一人一人が主役となり、当事者意識を持ちながら住みたいまちをつくるのが大事だとお話くださいました。

保内小学校に被災地支援品としてサッカーボール贈呈

11月16日(水)に、被災地支援事業として、アルビレックス新潟の営業担当の野澤さんや、明治安田生命新潟支社、そして新潟県学校生活協同組合が、保内小学校を訪れ児童代表にサッカーボールを贈呈しました。



アルビレックス新潟の営業担当の野澤さんからは、「水害があっても大変なことも多いと思いますが、笑顔で楽しく学校生活を送ってほしいと思い、サッカーボールを子どもたちにプレゼントします。みんなでサッカーをして元気になってほしいし、アルビレックスの試合をスタジアムで応援して家族で楽しんでもらえたら嬉しい」とメッセージをいただきました。



ふくちゃ部からのお知らせ



ふくちゃ部 部員募集中

発達が気になる子どもや
その家族を応援しています。



<https://hukutyabu.amebaownd.com/>

とっても小さな音楽会 ～音を創り上げる～

どんな人でも同じように音楽を楽しめる空間を作っていきたい。そして、障がいがある人もない人も、自然に混じり合い交流できるような地域を創り上げていけたら…と考えています。

箏、三絃奏者の伴田誠一郎さんや、音楽療法士の大竹孔三さんによる様々な音の響きを五感で味わいながら奏楽を楽しめます。和楽器の優しい音色により、聴覚過敏な子どもでも無理なく、穏やかな時間を過ごすことができると思います。寒い時期ではありますが、皆様のご参加をお待ちしています。

<と き> 令和5年1月29日(日)
午前10時～11時30分

<と ころ> つどい場「あら、ほっ」

<対 象> 発達の気になる子どもとその家族、テーマに関心のある方など
※ふくちゃ部への入部をお願いします

<参加費> 大人1,200円のところ、復興応援企画として無料! ※要予約

<申込先> ふくちゃ部 富田 Tel 090-2163-0696



【ふくちゃcafe】営業再開しました



【ふくちゃcafe】

<https://hukutya-cafe.amebaownd.com/>

あらかわ地区の事業所PR

暮らしのサポート なないろ

～高齢者の生きる喜びに寄り添い笑顔を支える～

代表の長谷部さんは、前職で入所施設やデイサービス、訪問介護や看取りなど、介護職歴が20年以上あるベテラン介護福祉士です。長谷部さんは、これまで高齢者の方々に接するなかで、介護保険のサービスでは満たせない高齢者の方々の願いや生活支援などについて、自分が力になれることがあればと一念発起し、今年7月に事業を立ち上げ、高齢者の方々の生活の悩みを解決するための各種サービスを行っています。介護保険外のサービスなので、介護認定を受けていなくてもOK!



なないろの長谷部さん



日々の活動を紹介中

なないろさんのサービス事例

- ・通院介助サービスを行い、通院後に昼食を一緒に食べながら話し相手になる。
- ・離れて暮らすご家族から、定期的な見守りサービスを依頼され週2回の訪問を行う。
見守りサービス(平日のみ)・・・週2回訪問(各30分) 利用料金月額7,000円(交通費別)
- ・趣味の付き添い、家事代行(掃除、洗濯、炊事等)、身体介護(入浴、食事、排せつ等)など

ひとり暮らしでも、住み慣れた故郷で人と人とのつながりを大切にしながら、生きる喜びを得られるように高齢者の願いに寄り添うようなサポートをしていきたいという長谷部さん。持ち前の明るさと、長年の介護職歴を活かして、時には介護保険サービスの案内や、関係機関へのつなぎ役になるなど、柔軟に対応していただけるので、お気軽にご相談ください。



散歩や買い物などにも付き添います

暮らしのサポート なないろ

営業時間 出張サービスは24時間対応 電話受付 午前8時30分～午後5時30分
料 金 通常1時間1,600円+交通費300円～ 電 話 080-6122-5746

あらかわ互近所ささえ～る隊

お互いさまだねっか講座

～いつか困ったときに「助けて」と言える地域へ～



【問合せ先】

荒川支所地域振興課地域福祉室
☎0254-62-3101(内線124、127)

毎月8日は「あらかわ♡ささえ愛の日」

11月10日(木)に村上市民ふれあいセンターで、お互いさまだねっか講座が開催されました。そこでは高校生のボランティア活動や、独自で互近所ささえ～る隊を立ち上げた町内や、村上地域まち協が災害ボランティア活動へ参加した事例などが紹介されました。高校生ボランティアからは「1人でも多くの人に笑顔になってほしい」という思いを大切にしているとの話がありました。

紹介された活動で共通していたことは、

“それぞれの立場で出来ることをやる”です。

活動を聞き、私には何が出来るだろうと、心を動かされた講座でした。

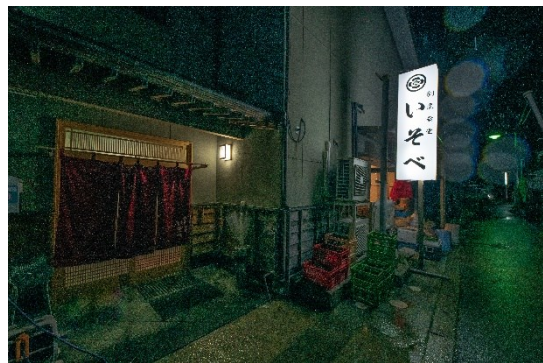


第11回：復活の「割烹食堂いそべ」の極厚丼を撮る！

雨か～🌧️しかしお腹空いたな～💧

おや？いい匂いが…

とある写真家Sの
あらかわ散歩



割烹食堂いそべではありませんか♪

8月の水害から見事に復活を遂げましたね♪



…え？新しくなったのはお店だけじゃない!?
このでっかいものは…？



コレとんかつなんですか!? で、デカイ👊

なんと新メニューのカツ丼が出てきました♪



厚さはなんと 5 cm♪

新潟県産岩船豚、山北産の野芳卵、もちろんお米は
岩船産コシヒカリ♪ みよ！この厚さを👀



ちなみに揚げる前に低温調理で10時間かけているので
柔らか～い😊

もちろん新鮮なお刺身も揃っております♪



お馴染みのいそべ定食

大人気「ずど～ん」

カツ丼もリニューアルで

「常に進化し続ける」割烹食堂いそべ

今後もますます賑わいそうです♪

本日のベストショット

「裏メニューはスマイル♪」

ヤバイ!?そろそろダイエットが必要?
そんな写真家Sでした♪



【店舗情報】 割烹食堂いそべ

営業時間：午後5時～午後11時30分 (L.O)

定休日：月曜日

住所：村上市坂町2505-4

電話：0254-62-2476

お店のHPはコチラ

<https://kappoushokudou-isobe.com/>



J R坂町駅前商店街に「だいすき！あらかわ」のぼり設置

商店街の賑わいを取り戻そうと、荒川商工会青年部及び商業部会とフリースタイルアラカワが協力し、駅前周辺の事業所に「だいすき！あらかわ」ののぼりを設置しています。



荒川商工会青年部の佐藤拓郎部長は、「災害から4か月が経過し、未だに駅前の活気が戻っていないといった声も聞こえてきますが、『だいすき！あらかわ』ののぼりを通じて、水害からの復興に向け街全体が一体となって取り組んでいる雰囲気を感じてほしい。そして、少しでも地域の活性化につながればと願っています。」と話していました。



また、荒川商工会では、毎年恒例の年末福引大売出しを「ガンバロウ！あらかわ！復興特別大売出し」と称して実施中です。**例年より規模を拡大し、豪華景品が盛りだくさんです！！**
年末のお買い物は、年末福引大売出しの参加加盟店でいかがでしょうか。



あらかわまちづくり 歴史探訪

Vol.17
(2022.12)

発行：支援・情報部会 須貝俊樹
監修：佐藤和一郎

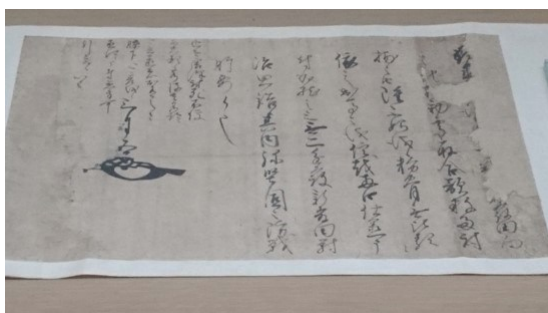
あらかわには、あっと驚く歴史があります

戦国時代



【垂水源二郎に上杉政虎（謙信）から感状が送られました】

河村氏の子孫とされる垂水源二郎は、別名荒川伊豆守長真とされ、上杉政虎（謙信）と武田信玄の川中島合戦に参戦しました。上杉方の資料によれば、上杉謙信と武田信玄との一騎打ちでなく、荒川伊豆守が武田信玄に斬りかかり、傷を負わせたとされます。それが事実であれば、荒川保の武将が武田信玄に斬りかかったという川中島合戦の新たな歴史となります。



関川村「せきかわ歴史とみちの館」にて

関川村の「せきかわ歴史とみちの館」には、荒川伊豆守とも称される垂水源二郎の末裔の方が寄贈された上杉謙信からの“血染めの感状”が展示されています。

入口看板にも、垂水源二郎が荒川伊豆守であると考えられると記載されています。

この地域の歴史は、日本における大事な歴史と大きくかかわっていたんだね。



私たち地元の武将が、上杉謙信公のから感状をもらった。え～っ、地元にはこんな貴重な古文書があったんだね！今後、私たちが習った歴史と違うことになるかもしれないね！次回は関川村の湯沢温泉を訪ねてみるよ。またまた驚きの発見があるよ！

編集あとがき 支援・情報部会 よこやま

今年けっこう売れてるらしい本『限りある時間の使い方』¹⁾の原著名にもなっている“4000週間”は、80歳まで生きる場合の人生の長さ。私は未入手・未読なので内容について知らないが…。物心つく頃にはまあまあ消化しているし、1日の3分の1程度は寝たりするので、実際に自由に使えるのはずっと少ない。労働に時間を割いていれば尚更である。クッソ暇なら訳出して供養しようと思った文献には埃が積もってしまっていて、その内1冊の副題が“Making sense of time”というのが皮肉のように感じられる。そこに書かれている事にも「あらかわらばん」はそれなりに触発されてたりするのであるが…、その辺りについて述べるには余白が足りないかと逃げておこう。

1) オリバー・パークマン(著)、高橋 璃子(訳)『限りある時間の使い方』かんき出版、2022年



荒瓦版

撮影：伊藤龍人 PHOTO BY RYUTO ITO - December 2022 -